

平成27年度 首都大学東京大学院都市環境科学研究科  
都市システム科学域 選抜試験（冬季）  
博士前期課程（一般・社会人）

科目 <小論文>

時間 12：30～14：30

- 注意事項：
- ①問題の選択にあたっては、最初のページの冒頭の説明をよく読んで解答しなさい。
  - ②その他、監督者の指示に従うこと。

受験番号	一般・社会人	氏名
------	--------	----

以下の設問（1～3）の中から、いずれか1問を選択し解答しなさい。

（1）都市科学の研究を行うにあたってどのような研究倫理が求められるか。また、あなたが行おうと考えている研究の場合は、具体的にどのような場面で、どのような研究倫理が求められると想定されるか、具体的に説明しなさい。

（2）東京駅は、1914年に辰野金吾により設計されたが、1945年に戦災により一部を焼失したため1947年に別の建築家によるデザインで復興した。その後2012年に1914年当時の姿を忠実に再現したデザインで復原された。これは、歴史を大切にしたものとして評価できるが、一方で、最初の姿に戻すことは、東京駅の建物が過ごしてきた歴史や記憶を否定するものである、という反対意見が出された。

このように、都市空間や建築の歴史をどのように捉え、評価し、後世に残していくかについては「正解」はなく、様々な考え方がある。あなたがよく知る都市空間や建築を取り上げ、①そこにどのような歴史があるかを示した上で、②それをどのように捉え、評価し、後世に残していくべきか、あなた自身の考え方を述べなさい。また、③あなた自身の考え方に対して、どのような反論が想定されるかについて述べなさい。

（3）平成26年の交通事故死者数は、14年連続で減少し、4,113人（対前年比5.9%減）となったが、交通事故死者数の65歳以上の高齢者の割合が過半数であるほか、78万人（平成25年）が交通事故で死傷しており、依然として厳しい状況である。また、通学路において集団登校中の児童等の事故が相次いで発生するなど、地区内や生活道路などにおいて交通安全上の問題はまだまだ多いのが実態である。

これらの状況を踏まえ、更なる交通事故の削減を目指し、安全で快適な交通環境の実現を図るためにどうすれば良いか、論じなさい。

なお、交通事故対策を網羅的・総体的に取り上げる必要はなく、論じる対象や論点を明示した上で（その対象や論点を挙げた合理的理由も明記すること）、論点を絞った議論を展開すること。